

神戸大学剣友会 メールマガジン 第32号

2022年1月15日

剣友会会長 野村秀明

発行責任者 藤原 勝

1. 年頭雑感 2022 — コロナ禍、二度目の新年を迎えて



野村 秀明（神大剣友会々長：55年卒）

2020年初、突如本邦にも飛来してきた未曾有・未聞なる件（くだん）のウイルスに翻弄され、早や二年が過ぎようとしています。後年、間違いなく、歴史年表に載るであろうこの出来事（事件）は、世界中の人間社会に思ってもみなかった変貌を強いようとしています。

勿論、これまで世界規模のパンデミックは幾度となくありましたが、ここまで人間社会の構造と認識の変容（パラダイムシフト）を要求するに至ったことは、ありません。高度な交通網発達と爆発的な人口増加が極限に達した21世紀にあって、我々は「人間（じんかん）」という根本的な社会認識の再考を迫られることになりました。「人と会うことが、圧力、侵入、そして暴力である」とまで見なされるようになった今、これまでの社会規範への antithesis を真っ向からつきつけられたような有様です。

人はもちろん社会性を有する生物であり、人間（じんかん）の直接的な関係を基盤に進歩・発展を遂げてきました。今後、この直接的な contact を放棄し、ITの介在によって、その関係を再構築せよというのでしょうか？

しかし、どうしても、このITの介入ではできないものの一つに、スポーツがあります。就中、相手に対峙して初めて成立する対人競技はなお更、そうです。剣道は、対人競技の最たるものであり、他の格闘技（フェンシング、ボクシングなど）と同様に相手を“打突する”という最も直接的な闘いの形態をとります。しかしその一方で、この相手を打ち負かすという過程の中で、「交剣知愛」という言葉にもあるように、闘いを越えたところに相手との繋がりが芽生えるという、なんとも不可思議な競技であることは、剣道人なら誰しもが知るところでありましょう。人と対峙することなしに剣道は存在しえないのです。

剣道マスクや面シールドをして、鏝ぜり合いや体当たりを自粛する、今のコロナ禍での剣道が過渡期のものであり、一日も早く本来の剣道へと回帰されることを願わないではられません。

“そのうち、終息するだろう”と高を括っていは、もっと厄介な変異株が世界中を席卷し

た時には、本当に「剣道」も失くなってしまいかも知れない・・・バーチャルの“Eスポーツ剣道”なんて、真っ平御免なのです!!

ということで、初春を迎えられた剣兄・姉の会員諸氏におかれましては、本年こそ、憂慮が杞憂とならんことを願いつつ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

2. 学生の状況



新年明けましておめでとうございます。2022年もチーム一丸となって頑張りますので応援のほどよろしく願いいたします。

普段の稽古の様子をご紹介します。

まず体操、素振り、足さばきを行います。その後面をつけて3人1組となり、繰り返し打ち込み掛かり稽古をし、申し合わせげいこを行います。

1度休憩を挟んで、申し合わせ稽古を続けるか、一本勝負、パターン練習など、日によって違うことを行い、最後に地稽古をして一日の練習が終わります。

昨今のコロナの影響で、OBの先輩方や、他大学との稽古の回数は大幅に減っており、基本的には自分で課題を見つけて、自分で改善をおこなう自主性が非常に大切な内容となっています。

ご指導を頂ける機会が減りましたが、逆に自分の剣道を深く見つめ直す良いきっかけにはなっており、伸びが実感出来た時などはとても達成感があります。

(神戸大学体育会剣道部 稗田悠人)



3. OBの状況

(1) 審査の立ち振る舞いに自信、昇段体験記

松井佳栄子さん（旧姓：中村、平成7年卒業）



このたび六段昇段に当たって原稿依頼をいただき大変光栄に思い、また非常に恐縮しています。数えてみたら足掛け12年、22回目の受審での合格でした。この合格はコロナ禍があったからこそと感じています。

それ以前稽古は定期的にしていただいていたものの先生方の助言をうまく実行できないストレスで心が折れそうでした。家で剣道のことを考えるのが嫌で素振りもしっかりしていませんでした。

対人稽古が禁止されたときは、再開後の稽古が不安で素振りは欠かさず、また動画で様々なトレーニングを試しながら行いました。それまで一人稽古の意味をあまり理解できていなかったのですが、続けているうちに自分の修正点が徐々に見えてきました。

そして対人稽古が再開されたとき先生方の助言がずっと入り、稽古が楽しくなってきました。その後も職場で感染が発生して自宅待機となったり、感染拡大で夏の受審をとりやめたり様々な困難がありましたが地道にできることを続けようと努めました。

8月末には三重県にも緊急事態宣言が発出され再び稽古場所が全面的に閉鎖されました。しかし重ねた稽古を無駄にしたいと秋の審査に向け連日一人稽古を重ね、10月に宣言解除になってからは一人稽古で修正したことを対人稽古で検証することを繰り返しました。

審査前日には夏の審査で合格した方から自信を持つことと「審査会場では素振りをせず静かに座って周りを見ること」を助言してもらい、これまでになく落ち着いた気持ちで臨むことができました。

審査中は明確な手ごたえはなかったものの「だめなら次はここを修正しよう」と冷静に考えていたところ、自分の番号を発見しその場で号泣しました。同時に県外への移動で一週間の出勤停止となっていたためこれ以上職場に迷惑をかけずに済むとほっとしました。

最後に神大剣道部とのつながりの深さを改めて感じた出来事を紹介させていただきます。

同期の藤智史君には私のSNS上での画像から着装について助言してもらいました。それに対し藤君に具体的にどうしたらよいか何度も質問のメッセージを送りましたが、藤君はつど丁寧な答えてくれて感謝しています。おかげで審査本番の立ち居振る舞いに自信を持つこ

とができ、剣窓での寸評では「女性の着装が端正だった」というお褒めの言葉をいただきました。以上、関係者の皆様に感謝すると同時に全国審査に臨まれる方の参考になれば幸いです。

(2) 会費納入のお願い

メルマガでも度々会費納入のお願いをしておりますが、今年度は1月11日現在で、約180万円となっており、予算額240万円を約60万円下回っています。今年度は、夏合宿や高校招待試合などが中止となっているため赤字とはなっていませんが、通常の活動をするためには再び剣友会基金からの借入に頼らざるを得ない状況となっています。先日学年幹事の方には納入者リストをお送りいたしました。各学年でもう一度お声かけいただきますよう、お願いいたします。

(3) 今後の予定

①東京地区の新年会はオンラインで1月16日(日)18時から実施します

②関西地区の新年会は1月24日(月)開催予定でしたが中止します。

感染者の急拡大のため、残念ながら開催を見送ることにさせていただきます。

対面での新年会の代わりに、Zoomによる新年会を開催いたします。

③Zoomによる新年会(関西)を開催します。

1月30日(日)18時より、1時間半程度Zoomを使った新年会を開催いたします。

ご参加いただける場合には、1月23日までに幹事長・藤田誠一(papageno@axel.ocn.ne.jp)までメールでご連絡下さい。前日までに招待状(URL、ミーティングID、パスコード等)を送らせていただきます。パソコンにZoomのアプリをインストールしていただければ、お送りするURLをクリックするだけで参加できます。簡単な解説も書店やウェブ上で入手可能ですので、ふるってご参加下さい。

3. 編集後記

◎明けましておめでとうございます。巻頭の野村会長の新年ご挨拶にありますようにコロナ禍も2年目を迎えましたね。まあ油断せず恐れすぎないで今年一年もお互い元気で過ごしたいと存じます。

◎そのコロナ禍も昨年12月の時点では収束するかもと思っていましたが、今年になってオミクロン株の急拡大。新年会はオンラインにしましたが、結果として良かったですね。パソコンの画面上で皆様とお会いできるのはうれしいものです。

◎六段合格の松井さんの体験記は元気をいただきますね。あきらめない人は結局最後に欲しいものをつかむ良い事例です。今年もしつこくやりたいことをお互いやりましょう。

(編集責任者 藤原 勝)

